

令和6年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(音楽科)教科主任名 志関菜穂子

★教科・観点について
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて まとめ
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	
知識・技能	1年	○歌唱表現に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫しようとする姿勢。 ▲曲想と音楽の構造と歌詞の内容との関わり。	パート別の練習に加えてすべてのパートを合わせる合唱の練習をしていく上で、曲想と歌詞の内容との関わりについて、曲想が音楽の構造によって生み出されるものであることに気付かせる。	1年			
	2年	○創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能。 ▲創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能。	他の声部の声量や声質に合わせて、自分の声量や発声を調節できるように歌い方を工夫させる。また、他者や他の声部の声、全体の響きなどを意識して、他者と合わせて歌うよさや必要性を感じさせる。	2年			
	3年	○音程やリズムを正確に声部の役割や響きとの関わりを理解して歌唱する。 ○曲想と楽器の特徴を理解し、鑑賞する。	言葉のリズムに音程を合わせる歌唱を反復し、お互いに聴き合う。 作曲者の祖国への想いを理解し、オーケストラの表現の関わりを知る。	3年			
思考・判断・表現	1年	▲鑑賞に関する知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、その価値を判断すること。	音楽を形づくっている要素や音楽の構造がどのようになっているのかを聴いて捉えることを通して、曲想と音楽の構造との関わりを理解させる。	1年			
	2年	▲鑑賞の批評文に関して、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。	生徒が感じ取った曲想を、自分としての感じ方を広げ、それと音楽の構造との関わりを捉え、解釈を深めていくことができるようにする。	2年			
	3年	○曲にふさわしい表現を工夫して歌う。 ○歌詞とメロディの関係に気付き表現する。 ○時代背景から作曲者の思いを感じ取る。	言葉のリズムに音程を合わせる歌唱を反復し、お互いに聴き合う。 作曲者の祖国への想いを理解し、オーケストラの表現の関わりを知る。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	○表現活動に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現活動を創意工夫できる。 ▲思いや意図を深めたり新たな思いや意図をもたらしする。	曲想と音楽の構造との関わりについての理解を深めるために、曲想を感じ取った理由を音楽の構造の視点から自分自身で捉えていくように促す。	1年			
	2年	▲器楽表現に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。	自分の演奏を客観的に捉えるために、学習者用端末を利用して演奏を録音する。それを聴くことで、創意工夫を具体的に、自分自身でそれができているかを判断することにより技術向上を図る。	2年			
	3年	△音楽の特徴を文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して鑑賞する。 △オーケストラで使用される楽器の音や構造に興味をもつ。	映像からその国の背景や情景を知り、リズムや速度、形式から音楽の特徴に気付かせる。 楽器の音色の特徴を知り、曲にどのように生かされているか気付く必要がある。	3年			